

知事と県民の意見交換会（平鹿地域振興局）議事要旨

○テーマ：秋田の医療を担う若手看護人材への期待

～看護師等を志す学生の想いと地域で活躍する若手看護師のメッセージ～

○日 時：令和4年6月30日（木）14：00～16：00

○場 所：秋田県立衛生看護学院 大会議室

○参加者：A氏 （平鹿総合病院 看護師）

B氏 （市立横手病院 看護師）

C氏 （秋田県立衛生看護学院 保健科 学生）

D氏 （秋田県立衛生看護学院 助産科 学生）

E氏 （秋田県立衛生看護学院 看護科 学生）

F氏 （秋田県立衛生看護学院 看護科 学生）

佐 竹 敬 久（秋田県知事）

佐 藤 徹 （平鹿地域振興局長）

知事挨拶

現在、コロナ禍における医療や福祉サービスの提供体制について問題が生じている。医師、看護師の不足や偏在に加え待遇などの根本的な課題については、すぐには解決できないものではあるが、医療は命の最後の砦であり非常に重要なことだと認識している。

日頃、医師会や看護協会の会長とは意見交換をしているが、今回は現場で勤務している看護師の方や、今後医療の道に進もうとしている学生の皆さんから、現場での苦労や今後に向けての希望などについて話を聞き、参考になる点については今後の県政に生かして参りたい。

導入

（局長）

今日参加の皆さんは、衛生看護学院出身で横手市内の病院に勤務されている看護師の方と、衛生看護学院の保健科、助産科、看護科の学生、合わせて6人となっている。看護師や看護学生としての日常や、普段の横手市での生活などを通じて、思っていることや考えていることについて、知事に率直にお話しいただきたい。

質問 1

（局長）

最初のテーマは、自己紹介を含めて看護職を志した理由やエピソード、そしてこのコロナ禍の中での学生生活や医療現場の実情についてお聞きしたい。

まず、最初に現在看護科2年生として在籍されている学生のお二人に、看護師を目指して衛生看護学院に入学した理由、現在の学生生活などを自己紹介を含めてお聞かせい

ただきたい。

(秋田県立衛生看護学院 看護科 E氏)

将来助産師になることを希望して入学した。幼い頃、妹や弟の出産に立ち会い、弟のへその緒を切るという体験もしたが、そこで初めて助産師という仕事に触れた。その体験をきっかけに助産師に興味を持ち、小学生の頃に将来は助産師になりたいと思い始めた。

現在看護科で勉強して思っていることは、高齢化が進んでいる秋田県において、例えば在宅医療や訪問看護の強化など、秋田県が先鋒となって日本や世界に発信できるような何か取り組めるものがあるものと思うが、そのような課題意識を持ちつつ、将来どんな看護職になりたいかということを明確にして学んでいきたいと考えている。

(知事)

今日の参加者の出身は全員県内か。県外はいるか。

(局長)

全員県内である。

(秋田県立衛生看護学院 看護科 F氏)

小学生の頃、祖父の入院のお見舞いに行った際に、看護師から患者だけでなく家族に対しても笑顔で話しかけてくれたことが印象に残っていたが、中学生のときにふれあい看護体験への参加を機に看護師の仕事に就きたいという想いを強くした。

また、将来は秋田県で働きたいと考えており、「県民のニーズに応え、社会に貢献できる人材を育成する」という教育方針の基で勉強が出来る衛生看護学院を志望した。

(局長)

次に、看護師の免許を既にお持ちで、コロナ禍の大変な状況の中で保健師を目指しているCさんと、少子化が危惧される中で、助産師を目指しているDさんに志望の理由や衛生看護学院を選んだ理由などを自己紹介を含めてお聞かせいただきたい。

(秋田県立衛生看護学院 保健科 C氏)

人のためになる仕事に就きたいという思いがあり、人間の活動の基盤となる「健康」を増進するという観点から支える保健師を志すことにした。この学校を選択した理由は、将来秋田県内で働きたい自分にとって、この学校で学ぶことが最善であると考えたからである。

（秋田県立衛生看護学院 助産科 D氏）

助産師を目指す理由は、看護学校の実習で産科病棟に行った際に、産科の幸せそうな雰囲気や、赤ちゃんやお母さんと関わる中で癒やしを感じ、このような空間で仕事が出来たら自分も幸せだと思ったことであり、助産師を目指すこととした。

この学校を選択した理由は、看護学校の先輩が多く進学しているという安心感や信頼があったことに加え、分娩介助の知識や技術についてももしっかり勉強できると判断できたことである。

（局長）

次に、現在横手市内の病院で看護師として勤務しているAさん、Bさんに、現在の病院を志望した理由や担当業務の内容などについて、自己紹介を兼ねてお聞かせいただきたい。

（平鹿総合病院 看護師 A氏）

現在は平鹿総合病院5階より病棟に勤務し3年目であり、循環器内科の患者を担当している。業務内容はバイタルチェックをはじめ、検査や治療の処置の援助をしている。看護師を目指した理由は、父が入退院を繰り返していたとき、患者の家族として病院を訪れた際に看護師の印象が良かったことが大きい。

衛生看護学院を選んだのは、横手市出身であり、近くに県立の学校があったことが理由である。

（市立横手病院 看護師 B氏）

市立横手病院の消化器内科の病棟に勤務しており、検温や清潔行為の援助のほか、医師の指示による薬剤の投与や検査の援助などが主な業務となっている。市立横手病院を選んだ理由は、横手市出身であり、地域に根ざした看護が出来る病院を探した際に、病院の看護科が掲げている理念・方針にそのことがあったことが理由の一つである。

また、勉強していて一番興味を持つことができた分野が消化器であり、治療実績が豊富で優れているということも志望の理由である。勤務は2年目である。

（局長）

それでは、現在、病院で勤務されているお二人から、3年近くのコロナ禍の勤務となっている中で、実際にどんなときにコロナの影響を感じているのか伺いたい。平鹿総合病院、市立横手病院の二つの病院は、地域医療の中核病院であり、コロナに対しても患者受入れの中心となっている。看護業務に当たって院内感染には相当気を遣っていると思うが、その点で精神的に負担と感ずることなどはないか。

(平鹿総合病院 看護師 A氏)

就職して1年目からコロナの対応が続いているが、面会禁止の影響は大きいと感じる。患者にとっては、家族が来てくれることで精神的な安心につながるものであるが、全くできないため、因果ははっきりしないものの、高齢の患者に不穏やせん妄が現れたことがあった。家族からも同様に本人の様子が分からなく不安であるとの声が聞かれるが、電話で患者の様子を伝えるので精一杯の状況である。

勤務体制に関しては、私はまだコロナ病棟への応援は経験していないが、先輩の看護師は入院状況に応じて応援に行っており、その分少なくなった看護師で業務をカバーしなければならない、きついと感じる時期があった。所属の病棟は比較的応援業務が少なく済んでいる方だと思うが、応援業務が多かったり、看護師本人や家族が発症すると更に負担が大きくなり非常に大変だと感じる。

(局長)

Aさんは直接コロナの患者には接してはいないものの、面会や人的不足による業務への影響が続いているということの認識で良いか。

(平鹿総合病院 看護師 A氏)

特に今年に入ってから横手市でコロナの患者が急激に増えたときは非常に大変だった。家庭を持っている先輩の方の中には、子どもが感染あるいは濃厚接触者となり出勤できないケースも何回かあった。

(市立横手病院 看護師 B氏)

やはり面会禁止の影響は大きい。特に入院しているターミナルの患者の場合は、余命がある程度分かっているにもかかわらず面会できない、危篤状態などの限られた場合にしか面会できないことは、患者本人も家族も大きな不安を感じていると思われるし、実際に不安な気持ちを持てる患者や家族は多い。

勤務体制については、保育園や学校関係で感染が拡大したときは、親である職員が濃厚接触や患者になるケースが増えシフト体制に大きな影響が出る。例として、日勤から通しで夜勤の時間帯まで勤務するということが何回かあったが、休む時間が少なく肉体的にも精神的にもきついと感じた。

(局長)

実際の現場の実状をお聞きしたが、病棟は24時間、365日体制のため、人員不足になると想像以上の激務になるものと感じた。知事から何かあればお願いしたい。

(知事)

話は少し違うが、ヨーロッパなど海外では男性の看護師が多くいる現状にあるが、日

本は少ない。看護師の仕事は力があるものもあり、男性がいることで助かることも多いと思うが、Bさんは勤務していて、女性職場を意識したことはあるものか。

（市立横手病院 看護師 B氏）

学生のと時から、女性が多数の中で過ごしてきたので、学生のと時から特に意識したことはなかった。

（知事）

私は11年前に50日ほど入院したが、相談したいことがあるときは、医師には言いにくいため、看護師に相談していた。医師が来ると構えてしまうが、看護師に対しては気軽に相談できた。看護師は頼りがいがある。

（局長）

今、知事から、医師には相談しにくい、看護師には相談しやすいとの話があったが、実際に患者や家族から相談されたことはあるか。

（平鹿総合病院 看護師 A氏）

患者から、「先生には聞けないので相談したい」と言うケースは多い。例として、先生から説明があった治療内容について本当は受けたくないといった内容のときは、私から先生に相談し、治療内容を変更したこともあった。実際に勤務していると、そのような相談を受けるという役割も大変重要だと感じる。

（市立横手病院 看護師 B氏）

私もAさんと同様の経験がある。患者にとって医師は怖い存在に見えるのかもしれない。患者さんから直接伝えられない部分は看護師から医師に伝えるようにして、最適な医療を提供できるように心がけている。

（局長）

ありがとうございます。コロナ禍の中で大変な実状や、看護師ならではのソフトな対応の重要さというものを教えていただいたと思う。

（知事）

これは、入院してはじめて分かることだと思う。

（局長）

実は、コロナ禍で看護学生の実習についての苦労もかなりあったと聞いたが、コロナも落ち着きを見せ始め、学院でも5月末に久方ぶりに運動会を開催したと学院長から伺

った。学生の皆さんの感想を伺いたい。

（秋田県立衛生看護学院 看護科 F氏）

素直に楽しかったと思っている。高校生の頃から新型コロナの影響を受けてきたので楽しみが減っていたが、久しぶりにクラス全体が団結して取り組むということが出来たので、達成感も感じられた。

（秋田県立衛生看護学院 看護科 E氏）

大変楽しかった。普段の学生生活では、保健科、助産科、看護科が合同で何か活動する機会がない中で、今回の運動会を通して交流がなかった人との関わりも持つことができ、貴重な機会をいただけたと思っている。

（局長）

どのような種目を実施したのか。

（秋田県立衛生看護学院 看護科 E氏）

横手体育館で行ったが、借り物競走、ドッジボール、クラス対抗リレーを実施した。

（秋田県立衛生看護学院 助産科 D氏）

楽しかった種目もあったが、疲れたのもあった。看護科は18～20歳と若く声援も大きく、体力で負けていると実感した。でも、助産科は顔を合わせる機会が少ないため良い思い出となった。

（秋田県立衛生看護学院 保健科 C氏）

看護科1年のときは、コロナ前のため通常通り運動会に参加したが、今回3年ぶりに参加した。毎日忙しい学校生活の中で、他の学年との交流もできて貴重な時間を過ごすことができたと感じている。

（知事）

修学旅行は実施しているのか。

（成田副学院長）

修学旅行は実施していないが、保健科と助産科は全国の学会に参加している。

（局長）

看護科としての修学旅行はないということで良いか。

(成田副学院長)

そのとおりである。

(局長)

有志で旅行に行っているものか。

(平鹿総合病院 看護師 A氏)

国家試験の受験後に旅行を計画していたが、ちょうどタイミングでコロナの感染が拡大し始めたため、結局中止した。

(局長)

コロナ禍でなければ実施できていたものができなかった。大変残念なことであったと思う。修学旅行を実施するわけにはいかないものか。

(学院長)

修学旅行の実施は難しいと思われる。

(知事)

修学旅行は他県の看護学校でも実施していないものなのか。

(成田副学院長)

実施していないと思われる。

質問2

(局長)

次に、看護職として就職を目指していく、あるいは看護師として働き続けるための希望やモチベーションの部分について伺いたい。

最初に看護師のお二人から、大変な仕事である分、やりがいも感じていることと思うが、具体的にどのような所にやりがいを感じるのか。さらには、秋田で働き続けるために必要だと感じることにについて、後輩の皆さんもおりますので、率直な意見をお聞かせ願いたい。

(平鹿総合病院 看護師 A氏)

地元で働き続けるために必要なこととしては、平鹿総合病院に併設の保育所があるが、一部閉鎖されてしまい、子どもを預けている先輩から不便を感じていると聞いた。子育てをしながら働き続けるためには、保育施設を充実させることは必要と感じている。

やりがいについては、プリセプティー（新人看護師）への指導を通して、2年間の勤

務で身についたことが確認できたときや、CCU（集中治療室）での勤務を経験させてもらうようになり、最初は機械装置を付けて安静を要する患者さんが、心臓リハビリ等の実施により回復した姿を見ると、看護師としてのやりがいを強く感じる。

（市立横手病院 看護師 B氏）

一人の患者さんを入院から退院まで担当することもあるが、その患者さんの病状が回復していく姿を見ることができたときや、患者さんや家族の方から感謝の言葉をいただいたときはやりがいを感じる。自分が実施した看護の意味が実感できる瞬間である。

看護師として目指したい姿については、患者さんが感じる痛みなどの苦痛は薬で緩和できるが、例えばターミナルの患者やがん患者は、「死」を意識することが多く精神的な不安や苦痛を抱えている方が多い。そのような方に毎日接する看護師として、日々のケアを通して精神的苦痛を取り除くことができるような看護師になりたいと思っている。

秋田で働き続けるためには、やはり給与や手当の改善が必要と感じる。都会で看護師をしている友人の話の聞くと、基本給や手当の差が大きいと感じた。都会は物価が高いと言うが、その分給与も高く若者は都会に憧れて流出してしまうと思う。難しい課題であるとは感じている。

（局長）

率直な意見をいただいた。県では賃金の向上に力を入れているが、看護職でも都市部との差はあるのか。

（市立横手病院 看護師 B氏）

友人との話ではかなり差があると感じた。

（知事）

都市部とでは大分差があると認識している。

（局長）

次に学生の皆さんにお聞きしたい。先輩看護師から、これから看護職になる皆さんにとって大変参考になるお話を聞くことができたことと思うが、これまでの授業や実習などを経験する中で「こんな保健師、助産師、看護師になりたい」などの思いや、「こんなところで働きたい、こんな分野を極めたい」など将来の夢や希望について改めてお話を伺いたい。

また、秋田県内に就職を希望されている方も多いようだが、その理由もあわせてお聞かせ願いたい。

(秋田県立衛生看護学院 保健科 C氏)

私は秋田県が好きで、地元で働きたいと考えている。これまで育ててくれたふるさと秋田のために公衆衛生看護という立場でふるさとに恩返しをしたい。この学校には4年間お世話になっているが、県立の看護学校であり、県民の方の支えによって勉強することができているので、微力ではあるが県民の皆さんの健康を支えていける保健師になれるよう努力していきたいと考えている。

(局長)

就職先はどのようにお考えか。

(秋田県立衛生看護学院 保健科 C氏)

現在就活中であるが、地元の自治体を考えている。

(知事)

公衆衛生の保健師については大半が女性であるが、男性の保健師は貴重であり、業務の面でも男性保健師がいることによりバランスが取れると思う。秋田県庁も男性の保健師を採用しているはずだが、よければ受験を考えてみてはどうか。

(秋田県立衛生看護学院 助産科 D氏)

秋田県に就職したいと考えている。都会は分娩件数も多く知識や技術の経験が増えると思うが、一人ひとりの赤ちゃんやお母さんに時間をかけてケアを実施できるかと言われると難しいと考えているので、秋田県内の病院への就職を目指したい。

今後の目標は、昨年の10月頃から秋田市の病院で産後ケアを始めたと聞いているが、県内では必要としているサポートや援助がまだ不足している所もあると思う。助産師は分娩というイメージがあるが、妊娠から分娩、退院後安心して育児ができるようにしっかりケアしていけるようになりたいと考えている。

(局長)

県内で分娩できる病院は少ないが、管内では平鹿総合病院と市立横手病院のみと認識している。

(秋田県立衛生看護学院 看護科 E氏)

看護の勉強を始めて日が浅く、日本や秋田のために何ができるのか模索中であるが、今勉強している内容の先には、誰かの命や生活があることを忘れずにいたいと思う。

また、どんなに医療が高度化しても、看護の基盤である人間のその人らしさや権利を守るということは変わらないと思うので、決して忘れず患者や家族と関わっていきたい。

(秋田県立衛生看護学院 看護科 F氏)

看護師として、〇〇病院〇〇科に勤務したいといった具体的な目標は決まっていないが、多職種で患者を支えることが重要であることから、コミュニケーション能力を高め、目標に向かってケアが出来るようになりたいと考えている。併せて、コロナ禍にもかかわらず、実習が出来ていることに感謝を忘れずしっかり勉強していきたい。

就職先については、地元であり、両親の老後を支えることができることや、この学校で県民のニーズに合った看護を学ばせてもらっていることから秋田県内に就職したいと考えている。

(局長)

Eさんからは、基本理念や心構えとも取れるような素晴らしい目標だと感じた。また、Fさんからは、チーム医療の一員として患者を支える看護師になりたいという主旨の発言をいただいた。

就職先については県内の希望が多く安堵したところであるが、皆さんに共通している点として、県立衛生看護学院の教育方針が学生の心に根付いていることや、県南地区には看護職の養成施設が衛生看護学院だけという点が効いていると感じた。

(知事)

(看護師) 国家試験の合格率 100%を何年も維持していると聞いた。これはすごいこと。先生方がいるので言いにくいかもしれないが、「こういう環境だったらもっと勉強が出来る」など、この学校の環境のことで希望があればお聞きしたい。合格率 100%を維持するには相当な苦労もあると思う。

(秋田県立衛生看護学院 助産科 D氏)

私は別の看護学校で勉強してから衛生看護学院に入学しており、施設や演習設備が整っている学校だと感じているが、(暑くなっても)クーラーがつかないことが気になる。先日も暑い中で勉強していたことがあった。

(知事)

冷房設備はついているか。

(成田副学院長)

ついている。

(知事)

運転の仕方か。

(局長)

冷房設備はあるが、予算の関係により電気代を節約しているのではないかと感じたがどうか。

(千葉学院長)

県の施設のため、県の基準に沿うように運転管理している。

(知事)

衛生看護学院は単純な事務作業ではなく、演習など体を動かすことも多く汗をかいたりするので事務作業とは大分違うと思う。局長からしっかり伝えて欲しい。

(局長)

夏は暑いけど冬も寒いと耳にしたことがある。これも夏と同様の理由と思われるので、併せて伝えたい。鶴田企画振興部長からもお伝えいただけるものと思う。

(知事)

看護師のお二人は経験していると思うが、「死」に接することについて、最初は動揺することなどはあったものか。ほかの職業では経験することがないことである。秋田市長時代に、警察官に採用されたものの、交通事故現場で血を見て卒倒したため2年で辞職し、その後市の職員の採用試験を受験したケースがあった。

(平鹿総合病院 看護師 A氏)

循環器病棟では、心不全の患者さんが入退院を繰り返すケースが多く、今回の入院が最後となったときには、気持ちが落ち込む。先輩看護師と対応することで気持ちの整理や回復を早めることができていると感じている。

(知事)

産後ケアも非常に重要である。昔は大家族で自宅出産だったため、おばあさんから色々聞いていたが今は違う。特に妊娠初期は不安なことが多く、相談相手がいないことも問題であるし、妊娠期間中の細かな相談も医師には言いにくいこともある。妊娠初期から産後までの一連の不安を取り除くことが虐待防止にもつながると思うし、産後ケアが不足することには問題意識を持っている。

(局長)

予定の時刻となったので、意見交換を終了したい。傍聴で参加している方から、本日のテーマに関連し意見などがあればお伺いしたい。

(意見等なし)

知事総括

国家試験の合格率も高く、真剣に勉強している様子が伺えた。看護職を志す理由や心構えもしっかり持っているということが良く分かり嬉しく思う。

また、特に高齢化や人口減少に伴う医療体系の分化（医療機関の役割分担）が必要になっており、医療現場は変わってくる。病院には様々な医療機器が導入されているものの、最後は人間の心の問題になってくる。患者にとってA I では癒やしにはならない。皆さんの仕事は社会にとってなくてはならないし、多くの人に頼りにされる仕事であるため、しっかり頑張ってもらいたい。看護師の二人からは新型コロナの感染拡大による現場の大変さも聞くことができた。コロナが収まっても、気候変動などで別の感染症が発生することもあるかもしれないが、健康に留意して頑張ってもらいたい。100%の合格率を維持するのは大変なことであり、プレッシャーもかかると思うがしっかり頑張ってもらいたい。今日は色々な面で勉強になった。